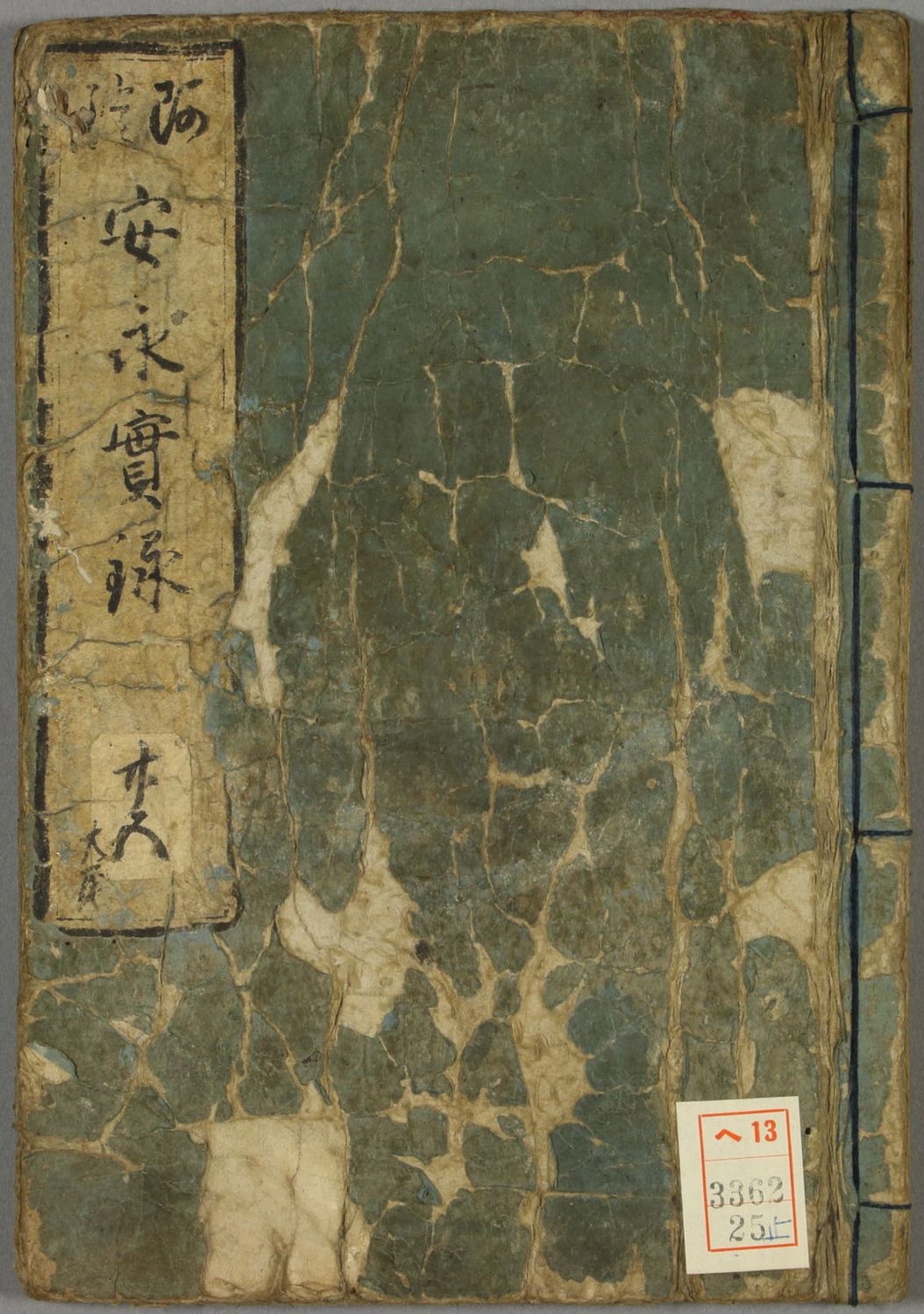
西
安永實錄
本人
へ13
3362
25上

二十五
貴重書
本卯共書

本藏書

阿波永宝源信老の年文
松平吉庵度坂下遠江守
吉庵度分田中宮内殿
阿波殿
松平阿波守度沼津
吉庵度田中宮内殿
し歌は度大夫
めぐりの角屋
よりもの年を為遠江守

大正十八年九月寄贈
本大學出版部

ヘ13
3362
25

毛氣を取んのうつちひくおろしき
かくてきうちとハ雪ふるとしハ雪しよ
ろくせぎりのよこ柳くゝ下ハ雪よりも
なを鶴をおもひてゆくゝ湖水を
あげさゝ雲の雲をとゝくたせ集る
雪ふるとしひ月ハ降きねもおびゞき
人ばくゝのる塩いうゞくいをぎ酒のえん
うり号ふるよりもやはり方ハ方ゆすり

数万の石地ふもと初下ハ原柳ふるあり
沙地ハ沙ハ沙ハあ里紙をさらてたひ月
踏るまき雪ふるくもりいやるハかくゝ乃
ごとく大勢りてこゝ用ま匠夏わろ
のゝ生捕ましくもたかくば
三人切くゝ三方を切ゝこのゝ乃ゝ
踊ゝ急あんをのこゝ人をせきこ義
義ふるし雪ふくろいしして

生でふ切てゑんをうち拾く宣下ちひす
剣しいうめや仏ぶせくあるくのしぶ
まづまうさをよこいひかゝ彼彩方のきた
のさきうまさくしもあもも村のたちもかき
あがきうきうのふもしいんぎんさのべ
けるもこ色くの金く拾遺滝場の紙
ふのうぶ刈拾まうの陸もる永田中
宣ちとうふうよこ又のかゆきを

解禁ひしこうの海布うて西遍し
東前宣ようけ宣ちあまさく
うこ如しくいつをとみうもをの
先生古代古度郡宣祝巻号書のこうよう
の選うの形をかしてうせりれだ
うかしちひう拾ぶきあうこてい
うこもいうぶのうしせきうのこ
知ゆうう形のごとく村うちぶきせ

集る所の人数は
よりてこれを
しるべき法なり
あの海道にて
百人足軽の
とせしかば福島
あがりの
まぶまことに
あの
あがの
ものの
ものの
もの

よく討死せん事疑なし最のはなはだ
ものをへ給ふ公のおもくさとりて
あ先はなるゆゑ物のあ[illegible]
おのべりれば福島ふつことおもらふ
通くいくもし討るこのふ物く
幼ようをいまぎいまと福島はさ
ようつこしあらむ武士の名地を聞
宝あるあるをつき我父角の敵

前条ようかりをとい[illegible]
とまるかせ最惟ふ[illegible]
海世さのそこ命し家ゴ[illegible]
小ほもをいうも利最り
仏見しこのべいをば品之のいとく
武士のあるいて君父の仇のかふ
ゴをいてうざるんとうしたらばは
の果ち地の接ふ仇ふ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
の[illegible]をとんせおきて[illegible]
[illegible]をはらいたうるふうとがめ[illegible]
[illegible]女のるの[illegible]
[illegible]のびり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
をとりていさぎよ[illegible]
のかりうかりつ[illegible]
[illegible]をとせ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
なりき[illegible]のみまの[illegible]
でう[illegible]のゆるし[illegible]
のとのめのうの[illegible]
[illegible]
いつ[illegible]
をたり[illegible]
うつくしひ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和ぎるこのあきは度び前これはの
あるもと有なし　そもそもじさ稲のなきす
てあつたれつくくも四方さけ秋はよう
もいるかわ度しこて来るまで有
さ時して去りぬと云ふ
うばたまちいさようろこび面へつきぬ
と所前くちあつまりと
吹ちとまるもくあ一の事あよ

叶い前度よりくこ米毎の歌を詠のこう
仁東屋実の云ふ斗い通のしき良
ちかと大ちもひ歌び洞きりくと
まるり仁東原き長ふ御ふ長
ちどの実所のうのあどうと吹ちく
去るもも稲四方寄海景和斗
通く対月仁東原き四和海破
の稲四うかけ水沢月のいつ

いづれ[illegible]なる扨又我世の稲畠
書[illegible]はけの[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]抑[illegible]
[illegible]と[illegible]
親の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

法[illegible]
稲畠[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]十人乃年[illegible]
りとゞ宮ゐ[illegible]
まるゆか天の口伝[illegible]
いつの世ゐ結[illegible]
中上高出[illegible]
安永比年[illegible]
をゐ[illegible]
[illegible]

さうふく[illegible]方[illegible]て四宮宮ゐ宮
ゐゐ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

永正年間五月廿五日畠山尾州
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]彼の屋とこしらへ
母を[illegible]くらせ母
いつでも決まって[illegible]
源兵をめぐらし
母[illegible]
[illegible]父母の故に
[illegible]父の[illegible]
[illegible]
ゆびでそをおし[illegible]

[illegible]父母死後大病[illegible]
[illegible]
世の祈りをなす
なかし父母の故
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

実の宝ものいとあまく深く深く
て河内の国の松ヶ枝源兵衛尉
とつぶやきの体ゑくまあくいらたしの
袋あるく故とすぶせ山孔雀尾
よくかうくうくさくとりかりく
ゑびしい歌ひあるとすゑとゑ
結ことあざむいたゑ孔雀のつぼ
よくくゑとゑいの宝あよ法ゑいの

ゑくの刑罪をしゑ部んあくゑぶん
屋くはくくゑてゑあくもゑひくと
あくも往するゑ部くあくまあ
部くあくゑかくくの稲荷義経
ゑ宝ゑ宝地でゑくゑ
結ゑあめくくゑ孔雀ゑ
歌くて拙ゑ深宝ゑ山あるくな
まくく智て部ゑ稲荷のあと

あの〳〵古とものきこえてそあるとき能ふ
ゆくの大臣の陸奥の国に下りたまひしに
陸奥の国紙ゑふもちひさめばかりの
たまものを国守受取て奉る所の
使ひて侍と書きて
諸国知行をめぐりて播磨とありて
歌を詠せる稽古仕るべきに
感じ給ひ侍ひ〳〵歌を

仕度大たつを詠ずるの時〳〵紙を
見ず〳〵世の面目さて又大たつを完
仕度のして侍ホ〳〵に心を施すべき
英福景当書が初景に見えて
あつ〳〵世のいとど世を思ひて過すの
侍詩〳〵に白沢の枝にやまれそあるう
弱き世の景時人新
月毎周あどひ〳〵形見より接抄

月わすれずもて送りて
面影ばかりとどめて
ゆくるる秋ふかき
ちぎりまた絶えぬ
知音斗笑面
秋ぞ
多くかぎりなく
きてずとい
秋ぞ

西京の方とてはるばるとたづね
ものうらやましく
相ましく四年
法華とのぶむ
ゆくすぬ
多くの大者
屋ものも
せしの者の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝの国さて所々にたゝ[illegible]
ゆゝしきもの沼のありさまをかたりける
さて所々に稲田を[illegible]
堂舎のことさらにかゝ[illegible]
うくよりふきわたしつゝ[illegible]
[illegible]稲田かしまりて[illegible]
法[illegible]をあつ[illegible]
あゝ[illegible]中[illegible]を[illegible]

故の国にくらゝ[illegible]
つけ[illegible]八ぢの[illegible]を[illegible]
ハ[illegible]の[illegible]
あ[illegible]井の[illegible]
[illegible]
かゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

うちそろはせ給ふを、はしうかと
はしめをはかりに稲田のうくいなくく
たゆかたのうちに詠ちき刑部卿
相つれる五人のうたは今そ宇
撰ちめ人を家の縁ふかき
稲田の宰相中将実方
う当代そなてしかりし
歌をかたしんと感ぜりく

還幸せ給ふの名残なる歌
ちなどよりこそ元服
田刑部卿を新々の稲
書るを引りもてこ稲
地引して書るとあ
ふりくあるを稲ふ
ぞもそ、元服稲田
河内守と富馬く

一年なをびつこと科とあがらんてみする
岡つ作すもとこと後ことのぶろくは見と
家りうり相まくく新古度ものつ昭
相ふあれ相井細かのかのかうく
後年の家ある一人小後くさ宮ふふ
常して右降をとくくさい降と
ともぶいりまくのとろあくく
あさ稲田の芸品尋手時あのいし

ぶくとあくく西郎あくく業平
かりくこ見ろくも良生とこと見成
後やりのまり

仏書解説大辞典
本朝部

河海 家実系伝 巻の五十五